18世紀のオーストリア・ウィーン

①人口:約20万人、貴族社会
②政治:ハプスブルグ家
マリアテレジアの16人の子供
ヨーロッパ諸国に広がる姻戚関係
③建物　レンガ造り。ホーフブルク宮殿やシェーブルン宮殿、貴族の社交界・舞踏会の舞台となった
④絵画:ベラスケスの肖像画、天井画、壁画
⑤音楽:オペラやオーケストラ、モーツアルトやハイドン
⑥道具:銀食器、ボヘミアンガラス

旅行の楽しみは、地域の総合性

バラバラに知っていたことが、実際に訪問することで関連性が分る

18世紀の江戸

①人口: 100万の人口のうち、半分が武士とその家族。他は商人等町人。層の厚い中間層

②参勤交代により、人口集中と技術交流が進む

③建物:木造建築、10年に一度大火がある。大名、武士、大店にとっては、一時の住まい。

④娯楽:浅草寺など、神社の境内などで、歌舞伎・相撲・手品などの興行。花街などで、義太夫、三味線、日本舞踊

⑤文学・絵画

・浮世絵、草子など大衆芸術。寺子屋

・芝居、芸者、旅などの錦絵(浮世絵)

⑥道具:茶碗、掛け軸、蒔絵、煙管、かんざし、着物などが貴重品。火事でも持ち出せる。

現代への継承

・産業革命

・アニメ

・職人技

・暮らし方

・省エネ